

Zoltán Dörnyeiの*Motivational Strategies in the Language Classroom*のmotivational strategiesを利用した2回のアンケート調査結果の報告—習熟度別(上位,中位,下位)及び男子学生と女子学生の動機づけストラテジーに差はあるのか？

森永弘司(同志社大学)

北島美咲(同志社女子大学)

日本英語教育学会第46回年次研究集会

(早稲田大学 2016年3月12日)

発表目次

1. 調査の目的
2. Zoltán DörnyeiのMotivational Strategiesについて
3. 参加者について
4. アンケート調査の実施方法
5. アンケート調査の結果
6. アンケート調査結果の考察
7. おわりに
8. 参考文献

1. 調査の目的

学習意欲を高めることの重要性

“You may take a horse to the water, but you cannot make him/her drink”

生来的な学習能力差は現然として存在するが、
どんなに優れた教授法といえども、**語学学習に
対する動機づけを高める**という視点を欠いたものであれば、十分な学習効果は期待できないであろう。

発表者は2008年にZoltán Dörnyeiが提唱しているmotivational strategies(動機づけを高めるストラテジー)の中で,どのようなストラテジーが学習意欲を高める上で効果的か,またどのようなストラテジーが学習意欲を減退させるかに関して関西地区の2つの私立大学の参加者を対象にアンケート調査を実施した.

2014年には2008年に使用したアンケート項目と同じものを使用して関西地区の3つの私立大学の参加者を対象に「学習意欲を高めると思うストラジー」と「学習効果が高いと思うストラテジー」の2つの質問に回答してもらうアンケート調査を実施した。この調査は「学習意欲を高めると同時に学習効果の高いストラテジー」はどのようなストラテジーかを調べることを目的としたものである。この調査の結果に関しては、2015年の全国英語教育教育学会第41回熊本大会で発表させていただいた。

2. Zoltán DörnyeiのMotivational Strategiesについて

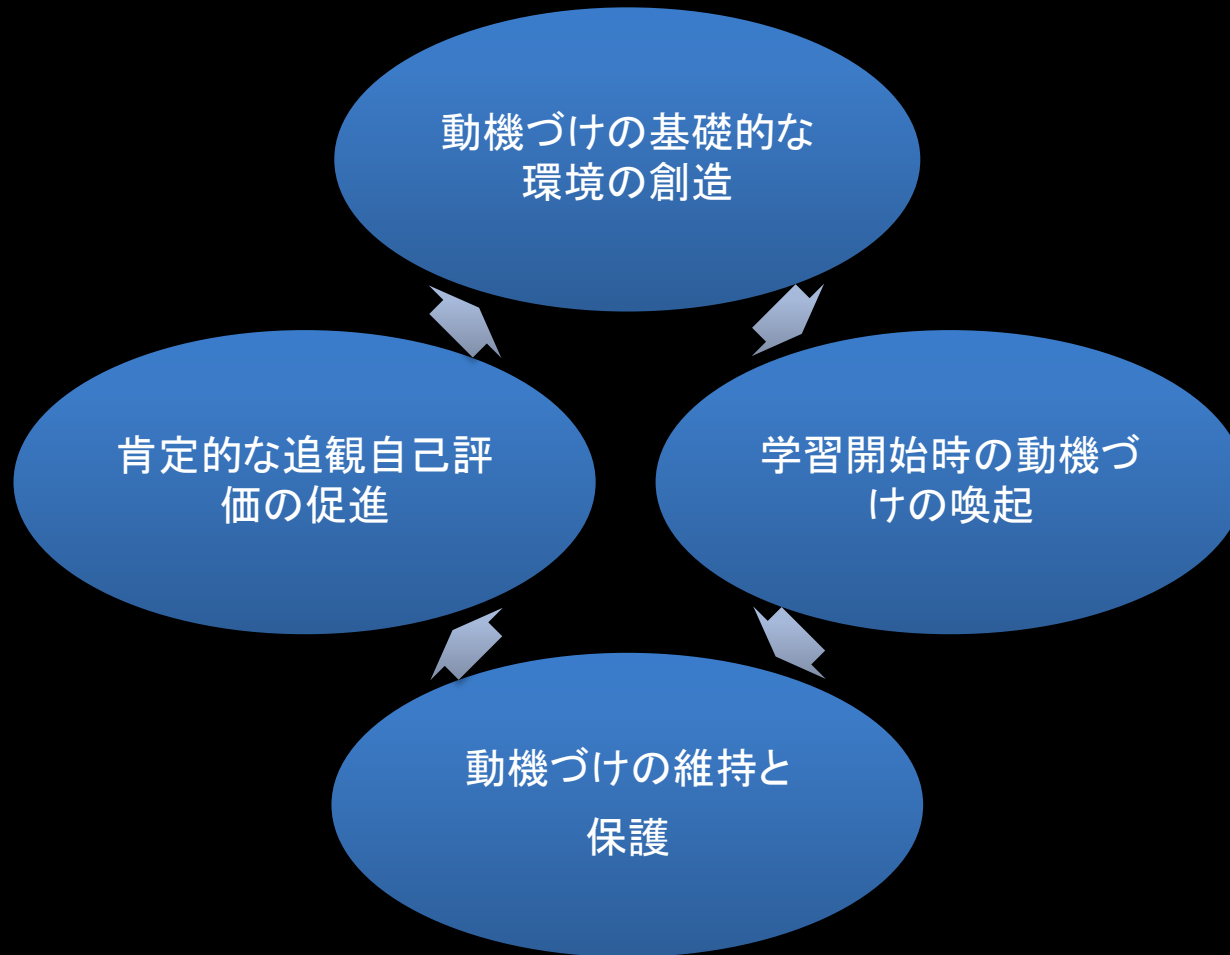
Dörnyeiの*Motivational Strategies in the Language Classroom*には動機づけの理論的土台に立脚して、教鞭を執るものにとって現場で活用できる多くの実用的な動機づけを高めるためのストラテジーが掲載されている。

アンケート調査の各ストラテジーに関しては、『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』(2005)の訳文を使用させていただいた。

『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』には
137項目に及ぶストラテジーが掲載されている。

アンケートの項目の1から8-2までは、「動機づけ
の基礎的な環境を作り出すストラテジー」として、9
から16-2までは、「学習開始時の動機づけを喚起
するストラテジー」として、17から30-3までは、「動
機づけを維持し保護するストラテジー」として、31
から35-5までは、「肯定的な自己評価を促進する
ストラテジー」として分類されている。

Motivational Strategiesのシステム図



3. 参加者について

2008年の調査では、RI大学の理工学部と情報理工学部、D大学の工学部、法学部、経済学部、産業社会学部、神学部、文学部、商学部、文化情報学部の参加者420名を対象にアンケート調査を実施した。

2014年の調査ではD大学の文学部、経済学部、商学部、法学部、政策学部、D女子大学の学芸学部、現代社会学部、生活科学部、RY大学の文学部、経済学部、経営学部、法学部、政策学部の参加者362名を対象にアンケート調査を実施した。

この調査では性別による動機づけを高めるストラテジーに違いがあるかどうかを調べるために性別の記入を義務づけた。男性の参加者128名,女性の参加者は234名であったので,女性の参加者が男性の参加者の2倍近くを占めことになった。1回目の調査の参加者の数と2回目の調査の参加者の数を合計すると782名になる。

4. アンケート調査の実施方法

137項目の質問項目それぞれに対して、「1.学習意欲をととてもかきたてる」、「2.学習意欲を少しはかきたてる」、「3.どちらともいえない」、「4.どちらかということ学習意欲を減退させる」、「5.学習意欲を減退させる」という動機づけの視点からの5段階で回答させた。回答時間は30分とし、時間が足りない場合は適宜時間を増やし、全ての項目に対して回答するよう配慮した。

5. アンケート調査の結果

アンケート調査の結果を,1.「全体での数値」,2.「英語習熟度別に分けた3群での数値」,3.「男性と女性の性別で分けた場合の数値」の3つに分けた.この3つの視点からの分類に対して,動機づけの観点から効果の高かった上位の10個のストラテジーを以下に掲載する.

(1) 全体での動機づけを高めるストラテジー のベストテン(N=782)

順位	アンケート 番号	平均値	質問内容
1	5	1.7	教室に楽しく,支持的な雰囲気を作る
2	2	1.73	生徒の学習を真剣に受けとめる
3	5-3	1.75	ユーモアを取り入れ,また勧める
3	2-2	1.75	学習のどんなことについても,いつでも快く学習相談にのることを伝える
5	5-2	1.82	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる

6	33	1.84	学習者の満足を高める
7	17	1.9	教室内の活動の単調さを打破することによって、学習をより興味深く楽しいものにする
7	3-2	1.9	生徒の一人一人を気にかけて、また彼・彼女らの話 に耳を傾ける
9	13-2	1.91	生徒が課題の成功には何が必要とされるか正確 に知るようにする
10	2-1	1.93	生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけてい ることを示す

(2) 上位群での動機づけを高めるストラテジー のベストテン (N=268)

順位	アンケート 番号	平均値	質問内容
1	2	1.67	生徒の学習を真剣に受けとめる
1	2-2	1.67	学習のどんなことについても、いつでも快く学習 相談にのることを伝える
3	13-1	1.69	生徒が十分な準備と支援を必ず得られるように する
4	33	1.7	学習者の満足を高める
5	5	1.72	教室に楽しく、支持的な雰囲気を作る

6	5-2	1. 77	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる
7	13-2	1. 83	生徒が課題の成功には何が必要とされるか正確に知るようにする
8	3-2	1. 84	生徒の一人一人を気にかけて,また彼・彼女らの話に耳を傾ける
8	5-3	1. 84	ユーモアを取り入れ,また勧める
8	2-1	1. 84	生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけていることを示す

(3) 中位群での動機づけを高めるストラテジーのベストテン (N=246)

順位	アンケート番号	平均値	質問内容
1	5	1.6	教室に楽しく,支持的な雰囲気を作る
2	2	1.64	生徒の学習を真剣に受けとめる
2	5-3	1.64	ユーモアを取り入れ,また勧める
4	2-2	1.68	学習のどんなことについても,いつでも快く学習相談にのることを伝える
5	5-2	1.75	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる

6	3-2	1. 83	生徒の一人一人を気にかけて,また彼・彼女らの話に耳を傾ける
6	17	1. 83	教室内の活動の単調さを打破することによって,学習をより興味深く楽しいものにする
8	33	1. 86	学習者の満足を高める
9	24	1. 88	定期的に励ましを与えることにより,学習者の自信を育む
10	2-1	1. 91	生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけていることを示す

(4) 下位群での動機づけを高めるストラテジーのベストテン (N=268)

順位	アンケート番号	平均値	質問内容
1	5	1.79	教室に楽しく,支持的な雰囲気を作る
2	5-3	1.8	ユーモアを取り入れ,また勧める
3	2	1.85	生徒の学習を真剣に受けとめる
3	2-2	1.85	学習のどんなことについても,いつでも快く学習相談にのることを伝える
5	13-2	1.89	生徒が課題の成功には何が必要とされるか正確に知るようにする

6	33	1・91	学習者の満足を高める
7	5-2	1. 92	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる
8	2-1	1. 98	生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけていることを示す
8	3-2	1. 98	生徒の一人一人を気につけ,また彼・彼女らの話 に耳を傾ける
10	17	1. 99	教室内の活動の単調さを打破することによって,学 習をより興味深く楽しいものにする

(5) 男性群での動機づけを高めるストラテジー のベストテン (N=128)

順位	アンケート 番号	平均値	質問内容
1	17	1.72	教室内の活動の単調さを打破することによって、学習をより興味深く楽しいものにする
2	33	1.73	学習者の満足を高める
3	2	1.8	生徒の学習を真剣に受けとめる
3	31	1.8	学習者の中に努力帰属を高める
5	2-2	1.84	学習のどんなことについても、いつでも快く学習相談にのることを伝える

5	5	1. 84	教室に楽しく,支持的な雰囲気を作る
5	13-1	1. 84	生徒が十分な準備と支援を必ず得られるようにする
8	2-1	1. 85	生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけていることを示す
9	5-2	1. 86	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる
10	13-2	1. 88	生徒が課題の成功には何が必要とされるか正確に知るようにする

(6) 女性群での動機づけを高めるストラテジー のベストテン (N=234)

順位	アンケート 番号	平均値	質問内容
1	5	1.66	教室に楽しく,支持的な雰囲気を作る
2	5-3	1.69	ユーモアを取り入れ,また勧める
3	33	1.7	学習者の満足を高める
4	2	1.74	生徒の学習を真剣に受けとめる
5	2-2	1.75	学習のどんなことについても,いつでも快く学習相談にのることを伝える

6	17	1. 78	教室内の活動の単調さを打破することによって,学習をより興味深く楽しいものにする
7	23	1. 83	学習者に定期的な成功経験を与える
8	5-2	1. 85	間違いを恐れずにやることを勧め,間違いは学習の自然な一部であると思わせる
9	3-2	1. 88	生徒の一人一人を気にかけて,また彼・彼女らの話に耳を傾ける
10	15	1. 93	教育課程と教材を,学習者に関連の深いものにする

(7) 全体群及び各群での動機づけを高めるストラテジーのベストテンのアンケート番号

順位	全体群	上位群	中位群	下位群	男性群	女性群
1	5	2 2-2	5	5	17	5
2	2		2 5-3	5-3	33	5-3
3	2-2 5-3	13-1		2 2-2	2 31	33
4		33	2-2			2
5	5-2	5	5-2	13-2	2-2 5 13-1	2-2

6	33	5-2	3-2 17	33		17
7	3-2 17	13-2		5-2		23
8		2-1 3-2 5-3	33	2-1 3-2	2-1	5-2
9	13-2		24		5-2	3-2
10	2-1		2-1	17	13-2	15

(8) 全体群及び各群での動機づけを高めるストラテジーのベストテンの平均値

順位	全体群	上位群	中位群	下位群	男性群	女性群
1	1.7	1.67 1.67	1.6	1.79	1.72	1.66
2	1.73		1.64 1.64	1.8	1.73	1.69
3	1.75 1.75	1.69		1.85 1.85	1.8 1.8	1.7
4		1.7	1.68			1.74
5	1.82	1.72	1.75	1.89	1.84 1.84 1.84	1.75

6	1.84	1.77	1.83 1.83	1.91		1.78
7	1.9 1.9	1.83		1.92		1.83
8		1.84 1.84 1.84	1.86	1.98 1.98	1.85	1.85
9	1.91		1.88		1.86	1.88
10	1.93		1.91	1.99	1.88	1.93
平均值	1.823	1.757	1.762	1.896	1.816	1.781

(9) 全体群及び各群での動機づけを高めるストラテジーのベストテンのカテゴリー別分類

カテゴリー内容	全体群	上位群	中位群	下位群	男性群	女性群
動機づけの基礎的な環境を作り出すストラテジー	2. 2-1 2-2. 3-2. 5 5-2. 5-3	2. 2-1 2-2 3-2. 5 5-2 5-3	2. 2-1 2-2 3-2. 5 5-2 5-3	2. 2-1 2-2 3-2. 5 5-2 5-3	2. 2-1 2-2. 5 5-2	2. 2-2 3-2 5. 5-2 5-3
学習開始時の動機づけを喚起するストラテジー	13-3	13-1 13-2		13-2	13-1 13-2	15
動機づけを維持し保護するストラテジー	17		17. 24	17	17	17. 23
肯定的な自己評価を促進するストラテジー	33	33	33	33	31. 33	33

6. アンケート調査結果の考察

1. 全体群を除く平均値から、ストラテジー番号のベストテンに関しては違いがあるが、上位群、中位群、下位群の順でストラテジーの効果度が下がって行っていることが読み取れる。この事は動機づけを高めるストラテジーに関して、上位群の反応が最も高く、下位群の反応が最も低いことを示唆している。男性群は中位群と下位群の中間より若干高く、女性群は中位群より若干低い。

2. 全体群を除く5つの全ての群でベストテン入りしているのは共通しているのは、2の「生徒の学習を真剣にうけとめる」、2-2の「学習のどんなことについても、いつでも快く学習相談にのることを伝える」、5の「教室に楽しく、支持的な雰囲気を作る」、5-2の「間違いを恐れずにやることを勧め、間違いは学習の自然な一部であると思わせる」及び33の「学習者の満足感を高める」の5つである。

2と2-2に関しては、「学習者の学習上の進歩に熱心に取り組み,期待する姿勢」が重要であり,そのためには、「学習上の助けを求められたらすぐに対応する」,「授業に関連のある,特に興味深い記事等をコピーして生徒に配布する」,「メール等で授業時以外でも質問を受け付ける」,「テストや提出物はできるだけ迅速に採点して返却する」等の対応が効果的であろう.

5に関しては、「結束的な学習集団を作り出す」ことが肝要である。そのためには、「クラスの成員がお互いのことを知る機会を多く設ける」ことや「協働学習を取り入れて共同性や協調性を上手く高める」ことが効果的であると考えられる。

5-2に関しては、「教室内に楽しい、支持的な雰囲気」を醸成することが重要であり、そのためには言語学習の大きな阻害要因となる言語不安を取り除くために「許容規範が支配的

であり、学生が自信がない問題でも平気で一か八か答えることのできるような雰囲気」を生み出すよう努力することが望まれる。33に関しては、「授業時におこなう小テストで最高点を取った学生やグループワークでおこなう課題解答で最高点を取ったグループにボーナス点を与える」といったことが有効な方略として考えられる。

3. 4つの群でベストテンに挙げられているのは、2-1の「生徒に教師が彼・彼女らの進歩を気にかけていることを示す」、3-2の「生徒の一人一人を気にかけて、また彼・彼女らの話に耳を傾ける」、5-3の「ユーモアを取り入れ、また勧める」及び17の「教室内の活動の単調さを打破することによって、学習をより興味深く楽しいものにする」の4つのストラテジーである。

2-1に関しては、「教師が自分が担当する学生の学習が、自分にとって非常に重要であること」、「学生が目標に向かって懸命に努力することと同じくらい教師自信も努力していること」を身を持って示したり、学生に言葉で伝えることが重要である。3-2に関しては、「学生の名前を覚え、教室外でも挨拶を交わす」、「学生の学校外の生活について尋ねる」、「生徒の趣味について関心を示す」等の行いが考えられる。

5-3に関しては,Dörnyeiが指摘しているように,ユーモアは「絶えず冗談を連発することではなく,むしろ真剣にとりくむべきことにゆとりを持って臨む」から生まれる.従って,自他の誤りを許容しえる寛大,寛容の精神」を涵養するような指導が望まれる.17に関しては,「リーディング主体のクラスでも,リーディングのタスクだけでなくリスニングのタスクもおこなうようにタスクにヴァリエーションをもたせる」,「活字の教材だけでは単調になるので,視聴覚教材も平行して使用する」,「一斉授業の

後でペア・ワークやグループ・ワークをおこなう」等の方法が考えられる。

4. 3つの群でベストテンとして挙げられているのは、13-2の「生徒が課題の成功には何が必要とされるか正確に知るようにする」のみである。13-2に関しては、「学生にとって難しすぎる課題は与えてはならない」ということが肝要である。何故なら成功ができると信じる時に、学生は

もつつとも真剣に学習に取り組むからである。
課題の成功に必要なものとしては、13-1で述べられている「学生に十分な準備と支援を必ず与えること」以外に、「グループ・ワークでおこなう課題であれば、学生に相互援助を行わせること」、「成績基準をできるだけ明確にすること」、「成功例を模範例として示してやること」等が効果ある方法として挙げられる。

5. 2つの群でベストテンとして挙げられているのは,13-1の「生徒が十分な準備と支援を必ず得られるようにする」のみである.13-1に関しても,「学生にとって難しすぎる課題は与えてはならない」ということが受容である.「タスクに対する準備には何が必要か教示すること」,「課題に行き詰った時に,必ず支援を提供すること」等を心掛けるようにする.

6. 1つの群にしかベストテン入していないのは、
15の「教育課程と教材を、学習者に関連の深い
ものにする」、23の「学習者に定期的な成功経
験を与える」、24の「定期的に励ましを与えるこ
とにより、学習者の自信を育む」と31の「学習者
の中に努力帰属を高める」の4つである。

15に関しては、現在の大学の英語教育は主とし
て社会と大学（近年は文科省が唱導している

「グローバル人材育成」という強い縛りがある)が学生が学ぶ必要があると考えているカリキュラムにもとづいて指導がおこなわれている。従ってこれを是正するためには、学生がどのようなスキルを重要・有用と考えているのか、またどのようなスキルを身に付けたいと考えているか等の「学生に対するニーズ調査と分析」をおこなう必要がある。

23に関しては、「新しい単元や問題を指導する際に、学生がうまくできそうな問題から初めて、徐々に問題の難度を上げていく」ような指導が望まれる。しかしなが易しすぎる問題は避けるようにしなければならない。成功体験を得るためには、それ相応の努力が必要とされるからである。

24に関しては、「教師が定期的に学生に対して、ある目標を達成できる能力を持っているということを、説得力のある言葉で伝える」ことが効果の高い方法である。31に関しては、能力の重要性を決して強調することをおこなわず、「努力—結果の連鎖の範例をしめすこと」をしたり「努力と根気をクラスの規範にする」ようにして努力帰属を推進することが肝要である。

7. 上位群のみが「動機づけを維持し保護する
ストラテジー」のカテゴリーにベストテンの質問
項目が1つも含まれていない。このことは動機づ
けを維持し保護することが、他の群に比較して、
その困難度が相対的に低いことを示唆している
と考えられる。中位群の場合は、「学習開始時の
動機づけを喚起するストラテジー」のカテゴリー
にベストテンの質問項目が1つも含まれていな
い。

このことは中位群では、学習開始時の動機づけを喚起することの必要性が、他の群に比べて相対的に低いと見なすことができるであろう。

8. 全ての群に共通しているのは、「動機づけの基礎的な環境を作り出すストラテジー」が占める割合が非常に大きいことである。従って動機づけシステムの第1段階である「動機づけの基礎的な環境を作り出す」ことに関して、かなりの配慮が必要といえる。

7. おわりに

Zoltán Dörnyeiは「**動機づけ戦略**は、たとえそれが最も信頼できるものであったとしても、盤石の指導原理ではなく、むしろある教師や集団には他よりうまく作用し、明日よりも今日うまく作用するかもしれないような提案にすぎない」ということを強調している。従って学習者の文化的な背景、年齢、習熟度等を勘考して臨機応変に動機づけの戦略を使い分ける柔軟性が教師には必要とされる。

8. 参考文献

1. Dörnyei, Zoltán (2002). *Motivational Strategies in the Language Classroom*, Cambridge University Press.
2. Okada, Yuusuke and Morinaga Koji (2004). “How to Maintain and Heighten Students’ Motivation? – Motivational Strategies for Language Teachers in the Classroom –The 44th Annual Conference of the Japan Association for Language Education and Technology.
3. 森永弘司 (2006). 「学習動機を高めるためのストラテジー— DörnyeiのMotivational Strategies in the Language Classroomで提唱されているストラテジーを活用したアンケート調査に基づく—」外国語教育メディア学会第46回全国研究大会.

4. ゾルタン・ドルニエイ著、米山朝二・関昭典訳. (2005). 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』東京:大修館書店
5. 森永弘司(2009). 「外国語学習意欲を高めるストラテジーを求めて—Dörnyeiの提唱するMotivational Strategiesを利用したアンケート調査にもとずいて」『立命館高等教育研究』 第9号, 195-210.
6. 森永弘司(2009). 「学習意欲を高めると同時に学習効果の高いストラテジーはどのようなストラテジーか? —motivational strategiesを使用したアンケート調査による—」
全国英語教育教育学会第41回熊本大会

ご清聴いただきありがとうございます